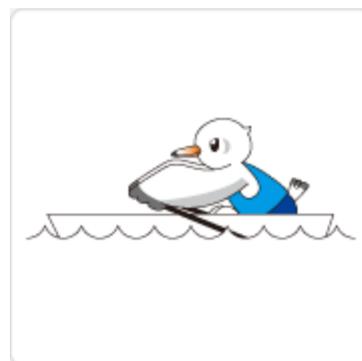


## 第 68 回国民体育大会

今年最後の全国大会。3年生にとっては高校最後の試合となる。選抜でダブルスルが優勝しただけでクオドは未だ勝っていない。国体はクオドだけの戦いとなる。もう後が無い事はみんな分かっている。優勝目指して岡山を出発したのは9月8日(日)。たくさんの人に見送られ岡山駅から新幹線で東京に向かった。宿泊先は両国のホテル。会場から一番近い場所になります。総武線5分くらいで平井駅に着くかな？

本日、10時岡山駅集合。10時半頃の新幹線を出発。14時前に東京着。そして、宿舎のある両国へ。その後、ボート会場へ行きオール・工具等の片付けをしました。・・・と今日の行動です。



9月9日(月)、午前中に配艇と公式練習が行われ、午後は自由行動となった。

肝心の配艇練習の方は、リギングに時間が掛かり効率が悪かったです。まあ、慣れないデルタ艇というのがあったかもしれませんが、それは言い訳にすぎません。明日はもっと効率を考えていかねばなりません。コースは、流れも強く、超高速レーンだと思います。おそらく2分台のタイムが出るのではないのでしょうか？

森川先生はホテルから歩いてスカイツリーを観光する。カップルと家族連れの中、浮きまくって下界を見下ろしていた。

『てっぺん』取って下さい!!!

でも、両国から歩くななんて無茶です。スカイツリー大きくて近くに見えても遠いですよ。夕食はちゃんこを食べ、両国を満喫しました。

子供たちは、どうやら新宿の方へ繰り出したようだ。目一杯おのぼりさんになって闊歩した事だろう。間違えて歌舞伎町に侵入しなかっただろうか・・・。都庁も有るけど行かないよね。アルタとか東急ハンズとかサザンテラスをウロウロしたんじゃないだろうか・・・。



そういえば昔、インターハイで配艇時刻を忘れてブランド物のベルトとか香水とか買って、先生に怒られてた年があったよなあ。あん時は先生が一人工具を持って走り回りリングしてたとか。それはそれで懐かしい。そんなチームでも優勝してたなあ。

9月10日(火)、今日も公式練習でした。昨日より手際よくできたようです。



←平井小学校で開会式がありました。

本日、宿舎を変りました。  
一昨日・昨日と blog にあるとおり、両国のビジネスホテルにステイしていました。そして、本日より岡山県指定の秋葉原の「ヴィアイン秋葉原」というホテルです。

9/11 山陽新聞朝刊に  
国体の特集が組まれた  
トップバーターは  
我らが関西高校ボート部 →



クルーメンバーを見て思うところ有。COXが2年生松上に替わっている。涙をのんだ選手がいた事を記憶しておこう。みんな以前見た時より一回り大きく逞しく成っている気がする。

9月11日(水)

少年男子4×+ レースNo.22 11:10 予選D組

1(岩手県) 岩手選抜	1:26.69	2:55.17	5	
2(茨城県) 潮来高等学校	1:25.70	2:53.00	3	→Semi-Final
3(熊本県) 熊本選抜	1:26.39	2:53.19	4	
4(大阪府) 大阪選抜	1:24.17	2:48.71	1	→Semi-Final
5(岡山県) 岡山選抜	1:23.94	2:49.32	2	→Semi-Final

インハイ王者の大阪は手強そうだ。前半は勝っているのに後半抜かれている。この試合

で相手の力量も計れたことだし、決勝まで当たらない事を祈っておこう。熊本は思ったほどでもなかったか。明日、明後日は試合が無い。保護者はお参りに観光に繰り出すのだろう。子供たちも遊びに行けるが、気を抜かないように！

成年ダブル、OBの増成君も予選通過。成年付きフォアの日大組は明日が予選だ。

#### 森川先生のお言葉

予選を2位で抜け13日の準決勝進出です。このレース、途中から大阪選抜と一騎討ちとなりました。前半出たものの終盤で差されてしまい、コンマ差の2位でfinish。十分勝てる相手でした。なぜ差されたのか？を検証し修正して、必ず“倍返し”します。

このコース、かなり難しいコースです。潮の干満の差が激しくて時間によってタイムが全然違います。（もちろん風向・風速の関係もあります）昨日のうちのゴールタイムは2分49秒。普通のコースなら考えられません。そういったことで先が全く読めません。まあ、ごちゃごちゃ言っても条件は皆一緒です。勝つクルーは、どんな相手であれ、どんな条件であれ、普通に「勝つ」のです。起こることを全て受け入れ、Speedだけを求めてattackするだけです。

Challenge makes champion. 挑戦しないことが最大の失敗なのです。

9月12日(木)、子供たちは2着の結果を受けて戸田で練習をしていた。東京に来てずっと外食のため体がおかしくなっていると感じた森川先生は家庭料理の店に連れて行っていた。お金を渡しての自由外食は野菜不足をおこし、体もむくんで来るのだろう。

明日の組み合わせ発表を見て、愕然としたのは私だけではないはずだ。神様は私の願いを聞いてくれなかった。何故!?準決勝でも大阪選抜と並べることになった。

9月13日(金)、まず結果より先に組み合わせの決まり方について聞きかじって来た事をお話ししよう。今までなら着順とタイム順で決まっていたが、潮の満ち引きにより時間によって激しいタイム差が起きる為、凡人には理解しがたい数式に当てはめて計算した結果はじき出されたものである。森川先生曰く、偏差値みたいな物を計算で出していたそう。だから予選と同じ相手とまた当たる現象は関西だけではないらしい。次に、コース選択だが、くじ引きでは無かった。予選1位が3コースは決まっているが、2コースを取るか4コースを選ぶか話し合いで決まった。大会側の責任転嫁容疑が臭ってくる。それは・・・潮の流れでどこかが早くなるのだ。2コースだったり5コースだったり。例えば38のピッチで漕いでも33の艇に楽々と追い抜かれてしまう。と言った感じ。しかし、勝ちにこだわる我々は諦めきれない。

86 9/13 11:10 準決 C	1				
	2(京都府) 京都選抜	1:39.10	3:17.92	3	
	3(大阪府) 大阪選抜	1:38.55	3:15.94	1	->Final A
	4(岡山県) 岡山選抜	1:38.10	3:16.93	2	->Final B
	5(秋田県) 秋田県立本荘高等学校	1:42.13	3:26.87	4	

どんなに悔しかっただろう。予選と同じ結果になってしまった。

### 森川先生のお言葉

すみません。2位でした。またまた大阪選抜に負けてしまい決勝進出を逸してしまいました。明後日の順位決定戦(5~8位)に進むことになりました。レース内容も一昨日と同じような展開だったと思います。前半500でキャンバス差出て(リードして)、ラストは差されて1秒差でGoal。(ちなみに私は500m付近で応援していました)たかが1秒、されど半艇身でした。選手たちは、よく頑張りました。果敢にアタックしてくれました。本当にこのレース、勝たせてやりたかったです。勝たせてやれなかった私の責任です。

明日は、成年の準決勝のためレースがありませんが、再度修正しなければなりません。明後日の順位決定戦、このクルーにとってラストレースとなります。何としても良い形で終えなければなりません。決して悔いを残してはいけません。そのためにもっと「初心」に戻り、より「謙虚」に、そして支えてくれた方々に対して「感謝」の気持ちを持って挑みます。どうか応援よろしくお願いします。



撮影:日本ボート協会 東京国体撮影スタッフ松尾裕介



撮影:日本ボート協会 東京国体撮影スタッフ松尾裕介



撮影:日本ボート協会 東京国体撮影スタッフ松尾裕介



撮影:日本ボート協会 東京国体撮影スタッフ松尾裕介

明日は成年の準決勝のみで少年の試合は無い。順位決定になってしまったが、3年生にとってのラストレースをこのままで終わらせてはならない。ガックリしている子供たちのモチベーションを上げるには練習あるのみ。明日も戸田での猛特訓が繰り広げられる。

余談だが、愛媛はクォドでの三連覇を目指していなかった。熊学も愛媛もダブルでの優勝を狙っていたが、準決勝で望みを絶たれていた。愛媛曰く「連覇なんて出来るもんじゃない。二年勝ったら二年お休みです。」それ程凄い事なのに、我々は当たり前のように望んでいた節がある。そして、それが出来るものだと森川先生が思わせてくれたのだ。国体六連覇、日本一連続八年するために痩せてはいないが、どれだけ骨身を削って突き進んできたのだろう。人には言えない先生の苦勞を見過ごして来た様な気がする。だから偉業と言われているのだ。岡山選抜では無く、関西高校と言われた時の歓びたるや他人が想像する以上の喜びだったのだ。決勝へ進めなかった子供たちの為に最後まで先生は動き続ける。

さて、今年のレース観戦は国体予選の百間川で終わりにしていたがソワソワする私に「最後の東京、行ってこい!!」と背中を押してくれた人がいた。国体一か月前のことだ。会場近くの東横インを予約する。神田秋葉原店は浅草橋駅が最寄りで、平井まで直ぐに着く。戸田詣での為に会員になっていたし、ポイント貯まって一泊無料だからだ。スーパー早特割で新幹線チケットを購入し、金曜日の仕事終わりで出発したから、秋葉原の駅には20時過ぎに到着。明日7時30分の成年ダブル・H18 増成君の応援を楽しみにアラームをセットしたが・・・寝付けない。いつもの事だけど夜中の1時・2時と時計ばかり気にしていた。

9月14日(土)、快晴。平井駅から徒歩10分を信じて歩くと着かない。汗だくになりながら、ひたすら歩く。土手が上がって会場を見渡す。観覧席は川上に向かってまだまだ歩かなくてはならない。東京都のうそつき!! ショップのテントと観客用のテントを通り過ぎてやっと川が臨めるスペースに辿り着いたが、フェンスに遮られた100mもない空き地があるだけで前列に陣取らなければレースの様子など分からない状態。なんと観にくい!!

呆然と立ちすくむ私に声をかけてくれたのは日大・H21 岡本君の父。知ってる顔にホッとす。

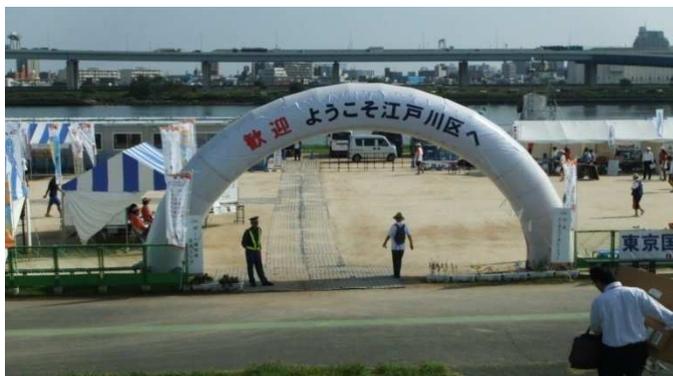
「増成～～!!ひでき～～!!じいさ～～ん!!!」

と久しぶりの大声は喉に激痛をもたらした。勝ったみたい。レースが終わった途端一気に汗が噴き出した。拭っても拭っても止まらない。ちょっと日陰で休憩していたら、明治のH21 樫原君と島根のH21 箕浦君を発見。OBが会場に来てい



るとは聞いていたけど早い時間だからかな、他には出会わなかった。もともと、付きフォアは決勝行けると信じて、最後の東京観光に出かけたのだ。会場からも見えるスカイツリーに向かった。

↓ 観覧席への入り口



↓ 土手の上から見えるスカイツリー



↓ 一寸しかない応援場所



↓スカイツリーから見たボート会場



#### 森川先生のお言葉

今日は成年種目の準決勝のため OFF・・・ではありません。戸田に行って厳しい？トレーニングをしていました。さて、明日は大会最終日。順位決定戦ですが、このクルーにとってのラストレースとなります。とにかく・・・“最後まで気にかけてくれる”保護者やOB、関西高校関係者がいることを忘れず、最高なローイングをしなければなりません。本日の成年男子の準決勝、関西OBを中心としたダブルスカルと舵付きフォアが見事に勝ち上がり、明日の決勝に駒を進めました。この種目で岡山のクルーが決勝に進んだのは何年ぶりでしょうか？ダブルは岡山国体以来だと思います。が、舵付きフォアについては記憶にありません。教え子の活躍を大変嬉しく思います。（プレッシャーもかかりますが・・・）頑張り、増成・岡本・佐藤・光亦・山地！！本家本元、関西TEAMも頑張ります。

これって岡山県が天皇杯得点（総合得点）にからむはず？！はたして総合得点は？総合

順位は??

最後に3年生の皆、三年間お疲れ様でした。そして、・・・ありがとうございました。君たちのことは一生忘れません。

9月15日(日)、最終日は激しい雨音で目が覚めた。台風18号の接近である。ホテルを出る頃には小雨に変わっていたが、いつまでもってくれるか分からない。荷物は平井駅ではコインロッカーが空いていないと確信できたから浅草橋駅に預けた。平井駅に着き、タクシー乗り場を探していたら、今日も樫原君に出会った。彼は律儀に日参してくれているのかと思うとちょっとした感動ものだよ。一緒にいたのは熊学出身の明治の子。二人で法政の市川君を待っていた。「一緒に会場まで行かない?」と誘ってみたら、快くおばさんと同行してくれたのは嬉しかったです。

会場に着いて最初に聞いたアナウンスは「2レーンの発艇台が故障しましたので・・・」という何とも不吉なものだった。



雨の中、上がって行くクォドへ保護者に混じって声援を送った。校歌は雨音に時々遮られる。応援団長の河井父がメガフォンを抱え雨に負けない声を出そうと必死だ。出場出来なかった三年生が保護者の中にいるのが分かった。最後の戦いを自分の目に焼き付ける為、仲間の艇を気持ちで押そうとやって来たのだ。

8時50分、スタートが中々かからない。雨は一段と激しさを増し、アナウンスさえ聞き辛くなっていた。いつスタートしたのだろう、アナウンスが

「止まりなさい。」

を繰り返す。艇が揃わないままスタートさせてしまったのだろう。やり直しを促した。暫く待つが、風も加わり横殴りの雨はまさに台風だった。ブイは急激な流れで引き千切れそうにアップアップしている。保護者の腰から下はずぶ濡れになっていく。傘も両手で支えないと飛んでいきそうだ。今まで経験したことのない様な天候の中、会場に流れたアナウンスは「クイックスタート」・・・?無理でしょ!!その場にいた人全員が思ったに違いない。それでもスタートした。荒れて波が立つ中を近づいてくる。一着の島根に大きく差を

付けられ、どうにも取り戻せないままゴールした。7位……。言葉も出ない。声もかけられない。こんな結末を誰が想像できたろうか…。

「白旗が上がり、只今のレースは成立しました。」

ああ、これで決定か…。みんなそう思ったと思う。この後、試



合は中断した。再開をテントの中で待っていたら、OBH22佐藤君のご両親とH21光亦君の母、H18増成君のご両親を見つけた。今日の決勝を観に駆けつけて来たのだ。テントの中は雨を凌ごうと多くの人でごった返しているが、現役保護者は入ってこない。関西の伝統となりつつあるマナーを守っている。だからといって嵐の中でまで貫くことは無いでしょうに。

突然、救急車が入って来た。人混みで誰が運ばれているのか分からない。気分が悪くなった観覧者か、風に倒れ怪我でもしたのか?

江戸川区の区民の皆様から豚汁のサービスがなされた。15分で無くなった様だ。区民の皆様のおもてなしは嬉しいが、東京都に腹が立つ!コースへの不満と他の競技に先駆けての日時設定。台風の時期にわざわざしなくてもと、どうみても八つ当たりの憤りだ。

「レース再開の予定を発表しました。」

のアナウンスに釣られてヒョコヒョコと掲示板に足を運んだ。幾分風が弱くなっている。掲示板の前はみんなが踏みしめて水溜りのドロドロ状態で近づけない。困った時の榎原君が登場。H19味野君と一緒に来た。榎原君の読み上げる声に耳を疑う。

「10:05 少年クォド順位決定って書いてあります。」

????????? ?をいくつ並べてもその時の気持ちは現わせない。何があったんだ!?

9/15 10:05 順位決定	1
	2(岡山県) 岡山選抜
	3(愛知県) 愛知選抜
	4(岐阜県) 岐阜選抜
	5(島根県) 島根選抜
	6

しかし、再度やり直しのレースは行われることはなかった。中止の発表に会場中がどよ

めいた。雨も小降りになってるのに…。じゃあ、どういう結果になるんだろうか？

順位決定戦のクルーは全チーム5位、決勝クルーは全チーム1位と過去にも例があると岡本父に教わった。負けてもないが勝ってもいない。スッキリしない結末になってしまった。でも、クオドはどうなるんだろう？あの試合は成立したのか不成立だったのか不安だけが取りまいてくる。すべての結果を見届ける為に閉会式までついて行くことにした。

現役保護者も不安で一杯なのは私たち以上だった。小野田父が結果の行方について尋ねてこられた。他の保護者も聞き耳を立てて伺ってくる。今しがた教わったばかりの知識を伝えた。補足は岡本父がしっかり話してくれました。

一様に沈んだ表情で優勝を狙えなかったことを謝ろうとしてくれるのだが、保護者からのお詫びの言葉は聞きたくない。みんな頑張ったのだから。この一年、いや二年間子供と共に泣き、笑い、楽しんで、苦しんで乗り越えて来た。それで十分じゃないか。先輩保護者に詫びを入れる必要など無いのだ。

会場を出ようとする、またアナウンスが何か言っている。

「少年男子クオドルプル順位決定のチームの監督さんは……。」

……きっと、成立か不成立か話し合うのかなあ？最後までじっくりしないなあ

土手に上がった所で、日大関係の大会関係者に会う。付きフォア保護者と行動を共にしていたので、色々不明な点を聞く事が出来た。順位決定の試合の後、ものいいが付いたそう。さもあらん、あんな悪天候で試合をすること自体おかしい。きちんと真直ぐ艇が揃わないのにスタートが出来るはずがない。クレームに対して審判が独断で大会役員の誰とも相談もせずに再試合を決めてしまったのだと言う。そこで、どうしたものかと話し合いが行われているのだそう。5位なのか7位なのか益々分かんなくなった。そして、もう一つの疑問の何故中止になったのか？は、国土交通省の「台風に備えての撤収命令」によるものだから抗えないのだそう。先程の救急車は上がって行く成年女子シングルの選手が『沈』してしまい、荒れ狂う水の中から救助されたのだった。これでは再開の仕様が無いのも頷ける。河川敷の会場を改めて見下ろせば、消防車に自衛隊の車両が4台待機している。この後、晴れて来ようが試合を行うつもりは全くないと物語っている。

午後1時、平井小学校にて閉会式が行われた。体育館の窓からは青空が見える。蒸し暑さと人混みで足元が揺れる。気分が悪い。でも、ちゃんと結果を確認しなくてはと、クオドの発表をジッと待ち続けた。

### 森川先生のお言葉

どしゃ降りの中、応援ありがとうございます。誰がこんな結末を想像したのでしょうか？

レース No. 137、少年男子舵手付きクオドルプル順位決定戦、8:50 発艇のレースは流れが激しく正常スタートが出来ず、二度の再スタートで行われました。スタートしたのがちょ

うど9時。その間の10分に風雨が強くなり、激しい白波が立っていました。全くボートが出来る状態ではありませんでした。まるで嵐でした！ そんな中、スタートが切られたのです。で、ゴール着順は島根、愛知、岡山、岐阜の順番でした。しかし、審判が白旗を揚げたにもかかわらず、全クルーに再レースを通告したのです。その後、しばらくの間、荒天のため、レースは中断となりました。が、それ以降のレースは、コースコンディション不良のため全て中止となり、レースNo.137も没収試合（レース不成立）となりました。結局、当該レースのクルーは全て5位扱いとなりました。もちろんOBが出てくる成年男子の舵付きフォア・ダブルスカルは1位扱いとなりました。（詳しくは明日の山陽新聞をご覧ください）

それにしても彼らの高校最後のレースがこのような形で終わるなんて？！（決してうちだけではありませんが・・・）しかし、5位は5位です。神様が「5位」をプレゼントしてくれたような気がします。同時に彼らに何らかの宿題をくれたような気がします。その宿題とは・・・？

会場の出口で森川先生に会った。真っ赤になった顔が汗だくになっている。疲労が全身から伝わってくる。お互い「お疲れ様」以外の言葉はない。

## 国体が終わった。

**成年 ダブルスカル 増成 1位**

**成年 舵手付きフォア 岡本・光亦・佐藤・山地 1位**

**少年 舵手付きクォドルフル 松上・古米・小野田・中西・河井 5位**

**競技別天皇杯 6位**



**平成 25 年度の一年が終わった。彼らはこの二年間必死で駆け抜けて行った。【奪還】を合言葉に貴重な青春の思い出を紡いだ。**

国体終了の翌日の山陽新聞朝刊には成年のダブル・付きォアで1位を取ったOB達の笑顔の写真が『岡山2種目制覇 成年男子』の見出しで掲載されていた。記事の内容は天皇杯6位の原動力となった2種目の健闘を讃え、光亦君の「最後の国体で岡山に貢献したかった」と増成君の「1年でここまでできるとは」とコメント付きだ。

次に少年男子ダブルスカルについて書かれた後、最後に綴られていた。

### 風雨でレース無効

○…少年男子かじ付き4人スカルの関西高にとって、立つべき本来の舞台では無かったが「ベストパフォーマンスを」と切り替えて臨んだ5～8位決定戦は、悪天候により成立しなかった。

風雨が激しくなる中で発艇。岸边から最も遠いレーンに入り、逆風と波のうねりが激しく3着に沈んだ。レース後、一度「成立」を示す白旗が上がったものの、その後の協議で無効に。「公平に行われなかった」と判断され、再レースも行われず他の3艇と並んで5位となった。

実に12年連続の入賞だが、王座奪還を目指したクルーに笑顔はない。集大成を披露する機会も奪われ、19歳以下日本代表の主将古米は「ピークを本番に持って来られなかつ

た。最後は出し切りたかった」と残念がる。

「先輩の気持ちを必ず受け継ぐ」とコックスの2年松上。7連覇を逃した2010年以降、2、3、4、5位と一歩ずつ遠ざかる国体王座への挑戦がまた一から始まる。

国体最終日の15日に全員岡山に帰ってきて良かった。16日には台風が上陸し、新幹線も飛行機もストップした。自然をなめてはいけない。15日の夕方、予約していた新幹線の中でも、休日のサラリーマンが母親に電話をしていた。

「台風が来るから今日帰ることにした。おばあちゃんに明日寄るって言ったけど行けなくなった。行けないって電話はしたけど、ぬか喜びさせちゃった…。母さんから電話してあげてよね。」

久しぶりに孫に会える楽しみも台風は奪っていたんだな。

名古屋辺りから窓に雨が当たり始め、京都に着くころには窓に縞模様が出る程の水が流れて行った。新幹線内のテロップに『特別警報』という聞きなれない警報が流れた。後で分かったが、警報は非難して下さいという意味だそう。しかし、国民は警報は学校が休みに成るものくらいの認識しかなかった。そこで、非難しないとヤバイよという意味で使われたのだ。

翌16日に台風がもたらした被害は夕方のニュースで明らかになった。京都・嵐山の渡月橋が凄い事になっていた。桂川が氾濫し床上浸水している。竜巻があちこちで発生し、福井の小浜も被災していた。東京駅の人重洲中央口でいくつかの、さも国体帰りのグループを見かけたが、台風で試合が中止になった上、自宅が台風で屋根が飛ばされたり浸水したりしていないだろうか。関西も2艇壊れてしまっていた。踏んだり蹴ったりって言うのだろうか。

そして、すっかり秋らしくなった旭川で新たな練習が始まる。時間は止まってはくれない。3年生は伴チャリで声を張り上げながら後輩の指導をはじめ。暫くは、今年も暑い熱い夏が終わったとしみじみと感じていたい。

## ありがとう 古米チーム!!

そして

頑張れ 田中チーム!!!  
頑張れ 田中チーム!!!